

# ミニトマト養液土耕栽培 における収量向上対策

～現地での施肥技術改善事例～

## 課題の 背景と ねらい

対象

- A農産(施設の共同利用組織:3戸)、所在地:吉賀町。
- ミニトマトの栽培面積は吉賀町六日市野菜生産者組合の41%。

課題

- 過剰施肥による塩類集積、多額な肥料費による経営圧迫があった。
- 平成18年から青枯病が発生し、収量が不安定。

ねらい

- 適正な土壌管理・青枯病対策の確立、施肥コスト低減。
- 養液土耕栽培技術・収量向上による早期経営安定と産地強化



## 普及活動の内容

① 養液土耕栽培技術の向上

② 青枯病対策

③ 経営管理能力の向上

経営分析指導

農技センター技術普及部との連携

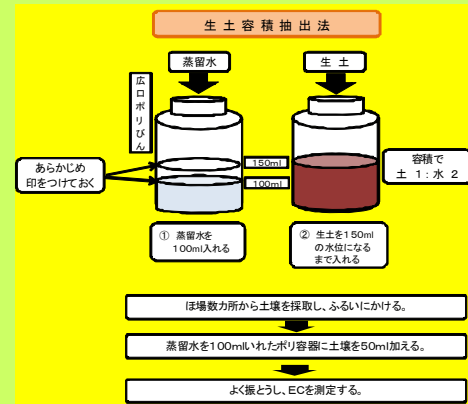
施肥技術改善指導

青枯病対策

作付け前の  
土壌分析に  
よる基肥施  
肥

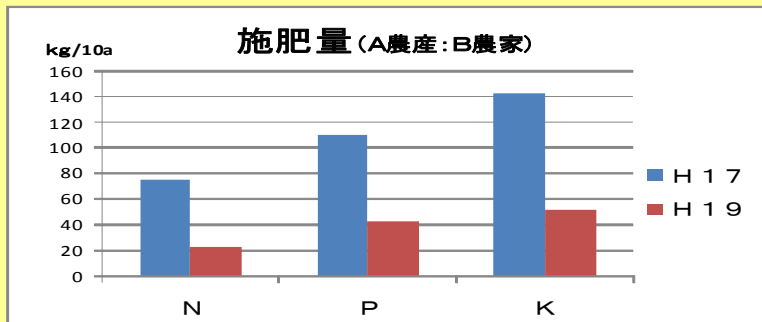
栽培中のリアルタイム  
土壌分析(生土容  
積抽出法)に基づく肥  
培管理

少量土壌培地耕  
(トロ箱栽培)の  
試験導入



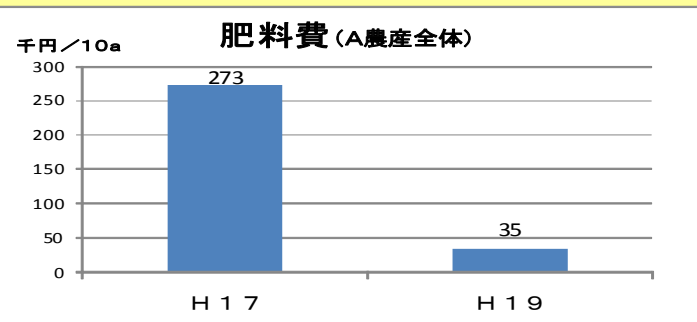
## 普及活動の成果

① 適正な肥培管理による施肥量の低減



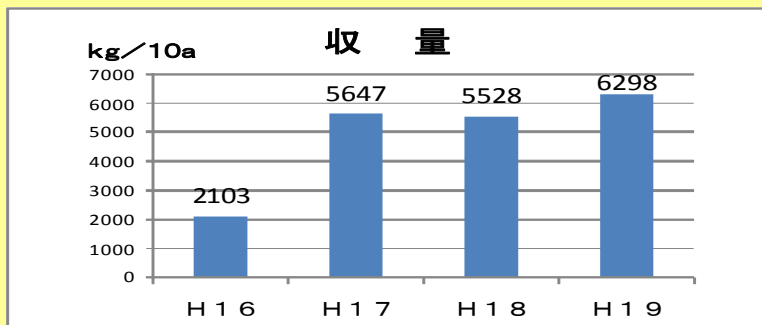
生産者は、メーカーのマニュアルどおりの養液管理を行い、過剰な施肥を続けていたが、分析数値を示して指導することで、施肥技術を改善。

② 単肥施用によるコスト低減



単肥施用体系の技術・肥料費のシミュレーションを示し指導。その結果、価格の高い配合肥料をやめ、土壌分析によって必要な肥料を単肥施用した。

③ 収量の向上



適正な肥培管理により、年々収量が向上。7t/10aを越える生産者もいる。

④ トロ箱栽培の実証



トロ箱栽培の生育は、養液土耕区と大差なく、青枯病の発生もなし。